

# 「弥生のころの北海道」

平成16年4月17日(土)～6月20日(日)

主催 大阪府立弥生文化博物館、文化庁、朝日新聞社、朝日放送  
後援(財)大阪21世紀協会  
協賛 費学女子短期大学、(株)国際交流サービス

## 考古学セミナー

場所 1階ホール 時間 午後2時～4時(受付午後1時～)

※全回参加者には修了証と記念品を贈呈いたします。

第一回 4月25日(日) 岡村道雄(独立行政法人奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部長)  
「石器からみた縄文時代の生活」

第二回 5月9日(日) 大島直行(北海道伊達市教育委員会文化財課長)  
「虫歯からみた縄文文人の食生活」

第三回 6月6日(日) 佐々木高明(国立民族学博物館名誉教授)×金関恕(本館館長)  
「対談・縄文時代を語る」

第四回 6月13日(日) 金関恕(本館館長)／学芸員  
「縄文文化への誘い」

●本館学芸員による展示解説／毎週日曜日と祝休日(午前11時～特別展示室にて)

大阪府立弥生文化博物館

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜日(ただし5月3日(月・祝日)は開館、6日(木)は休館)

入館料／一般600円 [480円]、65歳以上・高大生400円 [320円]、

小中学生・障害者手帳を持つ方は無料(〔 〕内は団体料金、ただし20名以上)

所在地／〒594-0083 大阪府和泉市池上町443 Tel.0725-46-2162 Fax.0725-46-2165

交通／JR阪和線 [信太山] 駅下車徒歩7分、南海本線 [松ノ浜] 駅下車徒歩20分

駐車場／普通車80台、大型バス7台(無料)

## 縄

縄文時代から弥生時代への変化は、日本列島の歴史の中でとても大きな画期と考えられています。それまでの狩猟、採集、漁撈を基盤とする社会から、水田稲作を基盤とする農耕社会に転換したからです。ところが日本列島内には、弥生時代を迎えなかった地域がありました。そのひとつが北海道です。

## 弥

弥生文化は北部九州から広がり、東北地方の北部に達しました。津軽海峡をへだてた北海道の縄文社会にも影響を与えたことは十分に考えられます。しかし北海道では、寒冷な気候のために水田稲作農耕は受け入れられず、狩猟、採集、漁撈を生業の中心とする時代が続きました。北海道独自の歩みを始めたこの時代は「続縄文時代」と呼ばれています。

## 続

続縄文時代は、縄文時代の伝統を色濃く残しています。しかし本州やサハリン、千島など周辺地域とは絶え間ない交流があり、鉄器や南海産の貝など貴重な品物を入手していました。また豊かな自然環境を背景に、狩猟、漁撈技術とその道具が一層発達しました。クマを中心とする造形物からは豊かな恵みを与えてくれる動物への信仰がうかがえます。

今回の展示会では、弥生のころの北海道に生まれた続縄文文化を紹介します。



クマの造形で飾った土器  
[苫小牧市タブコブ遺跡/苫小牧市教育委員会]



縄文土器の伝統を残す続縄文時代の土器  
[恵山町恵山貝塚/市立函館博物館]



発達した骨角製の漁撈具  
[恵山貝塚/市立函館博物館]



墓に副葬されていたコハク製の玉  
[苫小牧市ニナルカ遺跡/苫小牧市教育委員会]



南海産の貝で作られた装身具(レプリカ)  
[伊達市有珠モシリ遺跡/本館]

### 主な展示品

- 地域色豊かな北海道各地の土器
  - 動物の飾りが付いた鹿角製のスプーン
  - 擬似餌と考えられる魚の形をした石器
  - 木製の柄が装着された石製のナイフ
  - 墓に副葬されたイノシシの牙製の装身具
  - 北海道に運ばれた東北地方の弥生土器
  - オホーツク海沿岸に渡ってきた北方民族の残した遺物
- 出品総数約450点(重要文化財3点を含む)

平成16年  
4月17日(土) ~ 6月20日(日)